

～豊かな心と確かな力 瞳輝く寒川の子～

## 寒川町立寒川東中学校

研究テーマ： 「資質・能力を育む授業づくり」～タブレットの効果的な活用～

### 1 実践の目的

令和元年12月に文部科学省から「GIGAスクール構想」が打ち出された。その後のコロナ禍の影響もあり、令和2年度末までに全国的に1人1台端末、高速大容量の通信設備の整備がなされた。令和3年度から2年計画でタブレットの活用をテーマとした研究に取り組み、授業におけるタブレット端末の活用に一定の進展が見られた。また、それらを用いた授業が、生徒にとって効果的であることも明確になった。

今年度は「各教科や各学習場面においてどのような使い方が効果的か」を研究の柱とし、研究実践を重ね、生徒たちのさまざまな資質・能力を育ませたい。

### 2 実践の内容

(1) 学校経営方針との関連

#### ① 授業を核とした指導力の向上

- ・生徒に身につけるべき力を習得させるための適切な指導力の向上を図る。
- ・教師の説明と理解確認を精選し、生徒を理解深化に導くための授業づくりの工夫を行う。
- ・タブレットの効果的な活用についての研究を行う。

#### ② 確かな力を育てるために

- ・ICT 機器(タブレット)の効果的な活用を行う。
- ・本時の目標に迫るためのアプローチの方法を整理する。

- ・タブレット端末により、何が出来るのかを明確にする。
- ・本時の目標、及び生徒の学習意欲を引き出すための一手段として、タブレット端末を効果的に活用する。

(2) 大切にしたいスタンス・考え方

- ①千里の道も一歩から(最初は誰も初心者)
- ②支持的風土(どのようなレベルの実践でも認め合える雰囲気)
- ③全職員の研究への参加

なお、本研究の第一の目的は、「より良い授業」を構築するために「タブレットというツールをどのように活用できるか」にある。タブレットの活用を優先するあまり、授業の流れに無理が生じ、学習目標があいまいになることは本末転倒である。研究にあたってはその点を十分に踏まえ、取り組んでいく必要がある。

(3) 研究内容

- ①定期的にアンケートを実施し、活用状況の共有とその推進を図る。(活用頻度、使用した時間、使用したアプリ及び目的や場面等)
- ②講演会を実施し、タブレットの活用についての見識を深める。
- ③研究授業を実施し、タブレットの活用方法について学び合う。
- ④生徒アンケートを実施し、タブレット等の効果を把握する。

### 3 実践の成果

(1) 夏休み、10月の講演会を踏まえたまとめ

- 研究テーマが「タブレットの効果的な活用」であるので、タブレットを使いこなすことが重要である。
- 授業中に使い方をその都度指示しているようでは「活用」とは言えないので、制限なく、どんどん使わせてほしい。ただし、人を傷つける行為や、授業内で行う行動として不適切なものは指導することが必要である。タブレットの使用に関しては、1人で1台使うことが前提である。また、タブレットを使用するかどうかは教師が指示するのではなく、子どもが決めていくべきである。
- 従来、わからない単語があるときに辞書を使って調べてきたが、これからは自らタブレットで調べるといった感覚が必要になる。わからないことがあった場合は、教師に聞くのではなく、子どもたち同士で学び合うことが重要である。教師は学ぶべき課題を提示し、子どもたちはそれぞれの方法で学んでいくという授業の形が今後求められる姿になると考えている。教師は、時間配分や資料の提示などのコーディネート役となり、子どもたちの理解の進捗状況を把握することが重要な仕事になるであろう。また、他の人の考え方をお互いに見られるようにしながら学ぶ形が良いと思われる。
- 授業のやり方を変えずに、従来からの授業スタイルの中でICTをどこで使うかを考えるのではなく、今の時代にあった授業を考え、その中でICTをどこでどう使うのかを考えなければならない。
- この時代において、学習指導・生徒指導の他に特別な配慮や支援を必要とする生徒

への対応や、ICTや情報・教育データの活用などが、教師の資質能力に求められている。

(2) 1月の研究会を踏まえたまとめ

- タブレットの「日常的な活用」を積み重ねることで「効果的な活用」(資質・能力を育む)がめざすことができる。タブレットを道具として、また授業中にどう使うかを「教師が判断する」のではなく、「子どもと判断する」、さらには「子どもが判断する」状況を作っていきたい。
- 教科指導におけるICT活用は、すべての教員が活用できる状況を作っていかなければならない。
- これからの授業スタイルは、教師と子どもの「縦の学び」(ジグソーパズル型学習)から、子ども同士の「横の学び」(レゴブロック型学習)である。

### 4 今後の展開

昨年度までの研究により、授業におけるタブレット端末の活用 に一定の進展が確認され、今年度は「各教科や各場面において、どのような使い方が最も効果的か」を研究の柱として進めていき、試行錯誤を重ねていった。一斉学習・個別学習・協働学習の3つの場面ごとに授業実践をする中で、教科の枠を越えて学校全体でタブレットをより活用できるようになった。また、タブレットを活用することで、グループ活動や発表活動にも取り組みやすくなったなどの肯定的な意見も生徒から得られた。

一方で、協働学習での活用方法の工夫やタブレットの持ち帰りについて、課題が残った。今後も生徒の学習目標の達成に向けたタブレット端末の効果的な活用について、研究を深めていきたい。